

指導と評価の計画【公民科：公共】

<p>単元名 主として経済に関わる事項</p>	<p>内容のまとめり 自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち (主として経済に関わる事項)</p>
-----------------------------	--

本指導計画では、大項目Bを単元とし、中項目を以下の様に小単元として設定している。

- 大項目B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち・・・**単元2**
- 中項目(1) 主として法に関わる事項・・・・・・・・小単元1
- 中項目(2) 主として政治に関わる事項・・・・・・・・小単元2
- 中項目(3) 主として経済に関わる事項・・・・・・・・小単元3 (本単元)

1 本単元の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

- ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。
- ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。
- ・幸福、正義、公正などに着目して、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。
- ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成に向けて、共に生きる社会を築くという観点から、課題を見だし、主体的に解決をしようとする。

2 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通してより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸福、正義、公正などに着目して、経済の側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成に向けて、共に生きる社会を築くという観点から、課題を見だし、主体的に解決をしようとしている。

3 本単元の指導と評価の計画(12時間)(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	時	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
第①次 現代の経済社会	第1時	単元を貫く問い よりよい社会の実現に向けて、われわれは社会とどのように関わっていけばよいだろうか。				
		【ねらい】人口減少時代の日本社会において、持続可能な発展について多面的・多角的に考察する。				
		小単元を貫く問い よりよい社会を形成するための経済活動とは、どのようなものだろうか。				
		第①次の問い 日本の財政を立て直すには、何を重視して取り組むとよいだろうか。				
		本時の問い 大きな政府と小さな政府、どちらが望ましいか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 小単元の問いに対する仮説を、振り返りシート(以下「シート」)に記入する。 資本主義経済の成立、発展の背景を捉え、本時の問いに対する自分の意見をまとめ、シートに記入する。 	●	●	●	●小単元の問いに対する仮説を立て、学習の見直しをもっている。 ●公正かつ自由な経済活動の実施に向けて、政府が財産権の保護や所得の再分配政策などを通して国民福祉の向上を図っていることを理解し、大きな政府と小さな政府のどちらが望ましいか、多面的・多角的に考察・表現をしている。
第①次 現代の経済社会	第2時	本時の問い 市場に対する政府の役割とは何だろうか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 市場の失敗を理解した上で、本時の問いに対してグループやペアで共通点をまとめ、シートに記入する。 	●			●市場経済においては、公正で自由な経済活動を通して、希少な資源の効率的配分をもたらす市場機構や、競争を維持・促進するための政府による適切な政策が必要なることを理解している。
		本時の問い 企業経営者は、株主、従業員、消費者等のうち誰の利益を優先すべきか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 株式会社のしくみを理解した上で、本時の問いについてグループワークやペアワークを通して意見をまとめ、シートに記入する。 	●			●市場経済においては、企業の創意工夫による事業活動の活発化を通して消費者の利益が確保され社会的余剰が最大化することを踏まえ、企業の社会的責任やコーポレートガバナンスなどの企業のあり方について、幸福・正義・公正などに着目して、多面的・多角的に考察・表現をしている。
		本時の問い 国の豊かさを示す指標に、どのような要素が含まれるとよいだろうか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 経済成長がどのように表されるかを理解した上で、本時の問いについて意見をまとめ、シートに記入する。 	●			●経済活動の活発化は生活水準を高める一方、公害等が生じることもあるため、より活発な経済活動と個人の尊重の両立の必要性を踏まえ、国の豊かさを示す指標について、幸福・正義・公正などに着目して、多面的・多角的に考察・表現をしている。
第①次 現代の経済社会	第5時	本時の問い 日銀の金融政策は、どのように変化してきたか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いについて、それぞれの時代背景をまとめ、シートに記入する。 	●			●金融市場のしくみと金利の働き、各種金融機関の役割、金融政策の手段について理解し、市場経済の特質を踏まえ、金融政策の目的と中央銀行の役割について理解している。
		本時の問い 日本の直間比率は、どのような割合が妥当だろうか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いについて、直接税と間接税の特徴を踏まえた上でシートに記入する。 	●			●租税を中心とした公的負担の意義と必要性、納税が国民の義務であることや税金の用途について納税者としての立場から関心をもつことが大切であることを理解している。
		第①次の問い 日本の財政を立て直すには、何を重視して取り組むとよいだろうか。				
		<ul style="list-style-type: none"> 第①次の問いについて気づいたことや学んだことをまとめ、シートに記入する。 			○	○よりよい社会の実現という観点から、課題を見出し、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察し、妥当性や効果等を指標にして、自らの考えを説明、論述しようとしている。

第②次 経済活動のあり方と国民福祉	第1時 (本時)	第②次の問い 人間らしい生活を実現するための経済活動とは、どのようなものだろうか。		
		本時の問い 高度経済成長期に見られた経済活動のうち、現代の社会においても有効だと考えられるものは何か。		
		<ul style="list-style-type: none"> 日本経済の変遷について理解した上で、本時の問いに対してグループワークやペアワークを通して意見をまとめ、シートに記入する。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ●高度経済成長の背景やその要因と成果を踏まえ、現代社会における課題を見出し、その解決のために有効であると考えられる経済政策は何かについて、多面的・多角的に考察・表現をしている。
	第2時	本時の問い 日本の中小企業や農業は、グローバル化に対応するために何が必要だろうか。		
		<ul style="list-style-type: none"> 中小企業や農業の課題をグローバルな視点で捉えた上で、本時の問いについてグループやペアで意見をまとめ、シートに記入する。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の中小企業や農業従事者が置かれている状況と課題を踏まえ、自由貿易によってもたらされる利益と不利益や経済成長には労働力や資本の増加、生産性の向上などが必要であることなどの観点から、グローバル化に対応していく中小企業や農業従事者のあり方について、幸福・正義・公正などに着目して、多面的・多角的に考察・表現をしている。
	第3時	本時の問い 経済発展の維持と地球環境の保護は、どうしたら両立が実現できるだろうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の環境問題に対する世界での取り組みを踏まえた上で、本時の問いについてグループやペアで意見をまとめ、シートに記入する。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ●経済活動の意義は人間の生活を維持・向上させることにあるが、公害などにより国民福祉が阻害されたりするなどの問題が生じることもあることなどから、活発な経済活動と国民福祉の両立が必要であることを踏まえ、経済発展と地球環境の保護の両立に向けて私たちができることは何かについて、幸福・正義・公正などに着目して、多面的・多角的に考察・表現をしている。 	
第4時	本時の問い 消費者が直面するトラブルの具体例とその回避策を考えてみよう。			
	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会で起きている様々な消費者トラブルを調べた上で、本時の問いについて自分の意見をまとめ、シートに記入する。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ●契約には法的拘束力があることや、契約は当事者の意思に基づくことを踏まえ、契約により様々な責任が生じることを理解した上で、様々な契約トラブルの事例から、自由な意思決定や情報提供の有無、どのような解決を図ることが適切かなど、望ましい契約のあり方を多面的・多角的に考察・表現をしている ※本時の評価については、「主として法に関わる事項」とも関連させながら評価を行う。 	
第5時	本時の問い ワークライフバランスの実現のために、私たちができることは何だろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 日本型雇用慣行を踏まえた上で、本時の問いについてグループやペアで意見をまとめ、シートに記入する。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい勤労観・職業観や勤労を尊ぶ精神を身に付けるとともに、自己の個性を發揮しながら新たな価値を創造しようとする精神を大切に、自らの幸福の実現と人生の充実という観点から、職業選択の意義について理解している。 	
第6時	本時の問い ＝ 第②次の問い 人間らしい生活を実現するための経済活動とは、どのようなものだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問い（＝第②次の問い）について、社会保障制度の内容を分類した上でシートに記入する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障制度の意義や役割や課題について理解し、よりよい社会の実現という観点から、課題を見出し、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察し、妥当性や効果等を指標にして、自らの考えを説明、論述しようとしている。 	
	小単元を貫く問い よりよい社会を形成するための経済活動とは、どのようなものだろうか。			
	<ul style="list-style-type: none"> 小単元の問いについて学んだことを活用しながらまとめ、シートに記入する。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○小単元の導入時に立てた仮説を踏まえ、よりよい社会の形成に参画することに関心をもって現代の諸課題を問い続けていくとともに、問い続けていくことの意義を見出している。 	

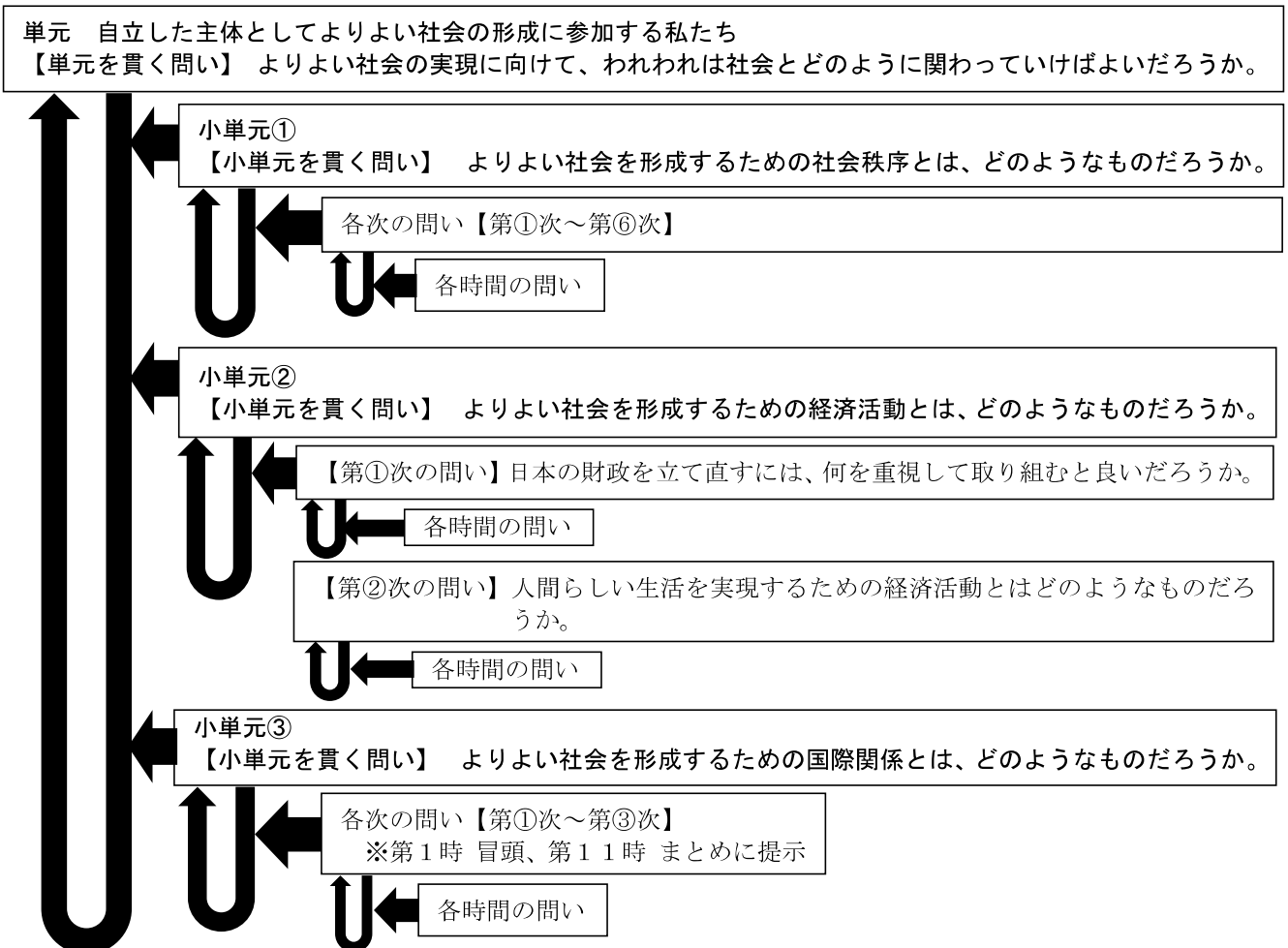
4 単元と問いの構成

学習指導要領における「内容のまとめり」と使用教科書の構成を踏まえ、単元と問いを以下の様に設定した。

<単元の設定>

章	教科書の内容	項目	小単元	次
1	1. 日本国憲法の成立	A(3)	小単元 1	第①次
	2. 平和主義と我が国の安全	B(2)		第②次
	3. 基本的人権の尊重 4. 人権の広がり	B(1)		第③次
2	1. 政治機構と国民生活	B(2)		第④次
	2. 人権保障と裁判所	B(1)		第⑤次
	3. 地方自治 4. 選挙と政党 5. 政治参加と世論	B(2)		第⑥次
3	1. 経済社会の形成と変容 2. 市場の仕組み 3. 現代の企業	B(3)	小単元 2	第①次
4	4. 経済成長と景気変動 5. 金融機関の働き 6. 政府の役割と財政・租税	B(3)		第②次
	4. 消費者問題	B(1)		
	5. 労働問題と雇用 6. 社会保障	B(3)		
5	1. 国際社会における政治と法	B(1)(2)	小単元 3	第①次
	2. 国家安全保障と国際連合 3. 冷戦終結後の国際政治 4. 軍備競争と軍備縮小	B(2)		第②次
6	5. 異なる人種・民族との共存 6. 国際平和と日本	B(2)		第③次
6	1. 国際経済の仕組み 2. 国際経済体制の変化 3. 経済のグローバル化と金融危機	B(3)		
	4. 地域経済統合と新興国 5. ODAと経済協力			

<問いの構成>



5 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

振り返りシートを用いて、第②次の問いに関して以下の通り評価した。

(第②次の問い 人間らしい生活を実現するための経済活動とは、どのようなものだろうか。)

・「おおむね満足できる」状況(B)…人間らしい生活の具体例が挙げられ、学習前後で変化がある。

例1)「おおむね満足できる」状況(B)の評価

【学習前】	不自由なく衣食住ができ、仕事・学業が主体的にできる生活を人間らしい生活といい、それを実現するためには、生活費を貯蓄することや、保険に加入していざという時のために備えることが必要である。
【学習後】	必要最低限の衣食住を得られ、生存権や基本的人権といった権利が保障されているのが人間らしい生活である。これらの実現のため、 <u>社会保障を充実させたり、商品の買い方を考えたり(グリーンコンシューマー)、ワークライフバランスを整える</u> といったことをするとよい。

例2)「十分満足できる」状況(A)の評価

【学習前】	心の健康が保たれると共に、欲望をもって生活しているのが人間らしい生活であり、その実現のため、十分な収入を得て好きなことにお金が使え、娯楽が充実している状態が必要。
【学習後】	働いて得たお金を自分の欲を満たすために使い、心が安定しつつ生活を楽しんでいることは確かに人間らしい生活だと思う。しかし、 <u>欲望のままに行動することは、よりよい社会の形成にはつながらない</u> 。現に、企業による利潤追求のみを考えた行動や人々の無責任な行動から、様々な環境問題が生じた。 <u>環境に配慮された製品を選ぶことやリサイクルすることなど、一人一人が環境に配慮した生活をすれば、よりよい社会の形成に近づくと共に、社会の一員であることを自覚でき、人間らしく生活できると考える</u> 。

※波線部が、多面的・多角的な視点からの表現となっている。

6 今後の課題(指導と評価の一体化に向けて)

(1) 評価改善について

(ア) 振り返りシートのアップデート。

① 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の客観的根拠となり得るシートの開発。

② ①を達成するための「小単元の問い」と、それにつながる「本時の問い」の設定の研究。

(2) 授業改善について

(ア) 「小単元の問い」を意識した年間指導計画の作成。

(イ) 生徒の表現力を高める訓練の場として、生徒の発言や表現する機会を増やした授業を実施する。そのため、生徒が答えやすく、思考が深まるような発問を研究する。

(ウ) (イ)を達成するための最重要項目を、学習環境の雰囲気づくりと考える。そのため、発言しやすい授業空間の構築と、興味・関心を引く教材の開発を目指す。

(エ) 授業内の意見集約は、発言と共にタブレット上での提出も可とする。集約した情報をまとめ、共有を図るスキルを向上させ、生徒の多面的・多角的なものの見方を刺激する。

(オ) (イ)～(エ)を意識した授業を実践し、振り返りシートのチェックを通して、指導と評価の一体化を日々図っていく。

学習指導案

日時			指導クラス		
教科	公共	単元名	自立した主体としてよりよい社会の形成に参加する私たち (主として経済に関わる事項)		
教科書	『詳述公共』(実教出版)、『最新図説公共』(浜島書店)				
本時の主題	日本経済の歩みと近年の課題(1)(1時間目/6時間中)				
本時の目標	「高度経済成長を実現できた要因」の中で、現代に活かせることがないか考察できる。				
評価規準	幸福、正義、公正などに着目して、経済の側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。【思・判・表】				
小単元の問い	よりよい社会を形成するための経済活動とは、どのようなものだろうか。				
本時の問い	高度経済成長期に見られた経済活動のうち、現代の社会においても有効だと考えられるものは何か。 【思考・判断・表現】(学習改善につながる評価)				
工夫した点	グループ活動を通して、協働して考察しやすい雰囲気構築している。				
過程	指導の内容	教師の活動	生徒の活動	指導上の留意点・観点別評価	
導入 10分	・小単元の問いの確認 (10分)	・経済格差の現状を ホワイトボードに 投影する。	・小単元の問いに対す る仮説を考える。	・振り返りシートに記入す るよう指示する。	
展開 30分	・日本経済の歩みのま とめ (10分)	・本日の授業内容を ホワイトボードにま とめる。	・ノートを取りながら、本 日の講義内容を確認 する。	・授業の最後に振り返るこ とができるようにまとめ る。	
	・個人ワーク (10分)	・机間指導をしなが ら、生徒の疑問に 答える。	・教科書を用いながら、 ノートの空欄を補充 する。	・質問を促す。	
<p>〈本時の問い〉 高度経済成長期に見られた経済活動のうち、現代の社会においても有効だと考えられるものは何か。</p>					
	・グループワーク (10分)	・本時の課題を提示 し、MetaMoji 上 でのグループ活動 を促す。	・教科書、資料集、タブ レットを用いながら、 本時の課題に対し て、グループで解答 を作成する。	・タブレット上でグループ活 動を確認しながら、議論 の発展を促すようにコメ ントする。	
まとめ 5分	・まとめ (5分)	・各グループのノート を、ホワイトボード 上に提示する。	・振り返りシート上の個 人ノートに、本時の課 題の解答を貼り付け る。	・全グループの内容を紹介 しながら、多様な視点か あることを提示する。	
<p>《評価基準》 振り返りシートにまとめられた〈本時の問い〉を、以下の通り評価する。【思考・判断・表現】 【Bの内容】 高度経済成長の要因を踏まえ、よりよい社会を形成するための方策について、多面的・多角的に考 察・表現できる。</p>					

振り返りシート⑥（このシートはあなたの成績に反映されます）※①は数字に○をつけ、⑨は貼り付けたふせんの数の数字に○をつけてください（最大5点）

②～⑧で記入したものは、教員が採点します。貼り付け場所は紙の外でも大丈夫です。合計点も教員が記入します。

「第2編 第4章 経済活動のあり方と国民福祉」

①授業や家庭学習を通して、現代社会で起きている出来事やニュースと授業内容を関連づけながら考えることができた。 (1 0)

はい いいえ

②「第2編 第4章」の学習前後を比較しましょう。【教員が採点します】 (2 1 0)
『よりよい社会を形成するための経済活動とは、どのようなものだろうか。』
学習前後共に人間らしい生活の具体例が挙げられている…1点、学習前後で変化がある…1点

【人間らしい生活とは】

【それを実現するために必要な経済活動】

【学習後】

③『高度経済成長の時代に見られた経済活動のうち、現代社会にも有効なことは？』 (2 1 0)
高度経済成長の要因を活用し考察している…1点、複数の視点から提案している…1点

④『日本の中小企業や農業は、グローバル化に対応するために何が必要か？』 (2 1 0)
中小企業に必要なことを表現している…1点、農業に必要なことを表現している…1点

⑤『経済発展の維持と地球環境の保護は、どうしたら両立が実現できるか？』 (2 1 0)
経済発展維持への取り組みがある…1点、地球環境への取り組みがある…1点

⑥『消費者が直面するトラブルの具体例とその回避策を考えてみよう。』 (2 1 0)
トラブルの具体例がある…1点、回避策が挙げられている…1点

⑦『ワークライフバランスの実現のために、私たちができることは何か？』 (2 1 0)
ワークライフバランスを実現する提案がある…1点、複数の視点から提案している…1点

⑧『人間らしい生活を実現するための経済活動とは、どのようなものか？』 (2 1 0)
具体的な経済活動を挙げている…1点、適当な理由が説明されている…1点

⑨授業内等に記入した疑問や質問、解答や意見の付箋を貼りましょう。 (5 4 3 2 1 0)
1. 日本経済の歩みと近年の課題 2. 中小企業と農業

3. 公害防止と環境保全

4. 消費者問題

5. 労働問題と雇用

6. 社会保障

合計点

点/20点